

昭和二十四年六月一日(原稿者特別改訂)第百四十五号
昭和二十九年一月十五日印刷(毎月一回發行)

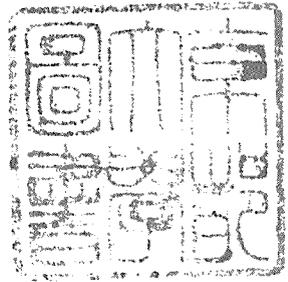
哲學研究

第三十六卷 第十一册

第四百二十一號

昭和二十九年一月二十日發行

ディルタイの生命の哲學……………石田 仁



マリノウスキ―論(完)……………棚瀬 襄爾

アメリカに於ける實驗心理學 クラレンス・ヘンリ・グレナム)

京都大學文學部内
京都哲學會

大 7

京都哲學會規約

- 一、本會は廣義における哲學の研究とその普及を圖ることを目的とする
- 一、右の目的のために次の事業を行う
 - (一) 毎月一回研究会を開く
 - (二) 毎年公開講演會を開く
 - (三) 毎月一回「哲學研究」を發行する
- 一、本會の事業を遂行するために委員若干名をおく、委員は京都大學哲學科教官及び委員會において推薦した者に委嘱する
- 一、本會は會員組織とし、會員には資格の制限を設けない、學校・圖書館・其他の團體は團體の名を以て入會することもできる
- 一、會員は會費として年八四〇圓、又は半年四二〇圓を前納する
- 一、會員は會誌の配布を受け、會誌に豫告する諸種の行事に出席することができる
- 一、本會は事務所を京都大學文學部内におく
- 一、本會規約の改正變更は委員會の決議による

京都哲學會役員

委員

有賀鐵太郎	井島勉	上野照夫	臼井二尙	重澤俊郎	島芳夫	園原太郎	高田三郎	武内義範	田中美知太郎	長尾雅人	西谷啓治	野田又次	松尾義海	三村勉	矢田部達郎
-------	-----	------	------	------	-----	------	------	------	--------	------	------	------	------	-----	-------

心理學自身にとつても常に好ましいことであつた。時がたつにつれて、又境界をこえての相互作用が増えるにつれて、實驗心理學の範圍と興奮さとは又増加するだろう。たしかに、多くの變化がこの二十年間において生じてきた。多分これからの二十年間においてはもつと劇的な變化があらわれるであらう。

實驗心理學者は、實驗心理學の變りつつある背景に對して、自らの變りつつある研究分野を眺めるとき、何を考えるだろうか。先づその一つとして、彼は、實驗心理學は非常に盛んになつたと感ずることが出来るだろう。それはあまりにも急激に、あまりにも豊かになりすぎたであらうか。われわれはそうでないと思ふ。われわれは、實驗心理學は三十年前よりもずつと兩數的な科學になつてゐるし、又それは研究の更に廣い配列に興味を感じてきており、又それはずつと成熟してきたと信じてゐる。

今日では實驗心理學者は多くの職業的な仲間を持つてゐるがそれらの人々の多くは行動の科學的な研究への興味を主張してゐる。實驗心理學者は科學的な探究への興味を持つつといふ點では彼等の仲間とは大いに異つてゐる。實驗心理學者は、心理學が進歩するにつれて實驗心理學が發達する機會が増えるだろうと考へてゐる。然し萬事が好都合であり、明るいとは云えないのである。われわれは一つの重大な危険に脅かされてゐる。それは實驗心理學とは實用の集積に對する補助の學問であつて、それ自身の權利における一つの科學ではないと考へられるような時が來るかも知れぬということである。これは重大な

アメリカに於ける實驗心理學

危険である。實驗心理學者は、利害をはなれた科學的な研究の領域としての自らの研究分野の發展を妨げるようないかなる運動にも抵抗するように心がけていなければならぬ。現實に實驗心理學は自己自身の權利における、一個の科學である。なんといつても實驗心理學は科學的な眞理を確立するという目標をまつ第一に保持していなければならないのである。(丁)

次 號 豫 告

事實と事實性…………… 樋元 和一

——問題論的考察——

ヘーゲル「法哲學」に於ける
市民社會論について…………… 鶴 山 孝

第三十六卷總目次

前 號 目 次

マリノウスキー論…………… 棚瀬 襄衛

トマス・アクイナスの形而上學研究(完)…………… 宮地 宏

——合成實體の存在と本質について——

會 告

一、本會は會員組織とし會員には資格の制限を設けません、入會希望の方は東都市左京區田中西浦町弘文堂内京都哲學會係宛に規定の會費（年八四〇圓又は半年四二〇圓）をお拂込下さい

「振替口座京都一九五五六番 京都哲學會」

一、會費切れの場合は帯封に「前金切」の印を捺しますから直ちに御拂込下さい、一年分（又は半年分）會費は原則として本誌十二冊（又は六冊）の送附済を以て前金切れとし、會費の變更其他の事情による過不足は一年（又は半年）毎に精算します

一、會員の轉居入退會等（編集事務以外は一切）の事務は弘文堂内京都哲學會係へ御通知下さい

一、本誌の編集に關する通信・新刊書・寄贈雜誌等は本會宛にお送り下さい

京 都 哲 學 會

京都市左京區吉田
京都大學文學部内

昭和二十九年一月十五日印刷
昭和二十九年一月二十日發行

編 集 人 京 都 哲 學 會

京 都 大 學 文 學 部 内

石 代 表 者

三 村 勉

發 行 人 八 坂 淺 太 郎

東 京 都 千 代 田 神 田 隴 河 際 四 ノ 四

印 刷 人 伊 藤 久 春

京 都 市 田 中 西 浦 町 四 〇

印 刷 所 弘 文 堂 印 刷 所

京 都 市 田 中 西 浦 町 四 〇

發 行 所 株 式 會 社 弘 文 堂

東 京 都 千 代 田 神 田 隴 河 際 四 ノ 四

註 文 規 定

一、會員以外の購讀者の御註文及び廣告に關する件は「弘文堂」へ御申込下さい

一、本誌の御註文はすべて代金郵税共（一部、定價七十圓・郵税八圓）前金にてお送り下さい

一、特に請求書及び領收書等を要する場合は郵券八圓をお送り下さい

昭和二十九年一月十一日出版
第XXXVI卷第11号

THE JOURNAL OF PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

Vol. XXXVI

January, 1954

No. 11

Wilhelm Dilthey's Philosophy of Life Shinobu Ishida

On Bronislaw Malinowski (II) Jôji Tanase

Experimental Psychology in America Clarence Henry Graham

Published Monthly
By

THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY
(The Kyoto Tetsugaku-Kai)
Kyoto University
Kyoto, Japan